

保姆は保姆として自身の趣味に生きなくてはならぬ  
そして大いに美感も味ひ、繪も描く人とならなくてはならぬ。只幼児の出品に出會した時、輕々の内に見逃さず、同情を以て輔導啓發する保姆とならなくてはならぬ、つまり藝術に對して、同情し了解し、それを鑑賞し得る、人たらねばならぬと云ふのである。

## ○編輯室より

○我が保育界にとつて、誠に多忙多事であつた今年も終らうとしてゐます。幼児教育と改題してから、本誌も滿一年を過ぎました。今後、益々この時代の潮流に乗りだして行かねばならない本誌の責任もなか／＼大きい事と思ひます、切に皆様方の御援助を願ひます。今や世界を壓倒しつゝある種々の思想はやがて、靜かな若共の樂園にも波打つて来るのではありますまいか、

○倉橋先生もいよ／＼年内に外遊なさる事になりました。今迄恰ど先生の手一つにはぐくまれて來た様な我が幼児教育界は、先生の御留守と云ふ事に、何となく乳離れの子供の不安さがあります。し

かし先生は、この有史以來、否、空前絶後とも云ふべきこの時代に廣く世界を遊歴なされると云ふ事は誠に喜ばしい事で、一人、先生のみならず、我々、日頃先生の薫陶に預りし人々の、誠におさへきれない誇りであり、先生は、どんな、大きな抱負をもつて世界をお廻りになる事でせう。教育問題、社會問題、國際問題あらゆる世界の思潮は、今やあの勢力を無限な先生を迎えやうとして待ち構へて居ります。

二三年の後、先生は、それこそ、一層元氣旺盛で澤山の御土産を持つて、また私達の中に歸つて下さいませう。その時に我が國が、我が教育界が、先生に負ふ所はどんなに大きいでせう。

幸に日頃御強壯な先生の愈々の御健勝を祈り上げます。

○「今年の夏に」の續稿は何分、倉橋先生の御留學が俄かに、日がせまつたために、非常に御忙しく、引續き御執筆を煩す事が出来ませんでした。あの稿に關係深き土地の方々並に讀者諸君の御諒察を願つて置きます。尙「保育の手段」としてのお話の稿は、何れ近々に、日本幼稚園協會のお話研究部から、多年研鑽した幼児向きのお話集が出版されますが、その本に一層、詳しくお書き下さる筈ですから本誌に續稿掲載を見合せる事と致しました。これまた御了承を願います。

○本誌の編輯兼發行人が、本月から變りました。従つて本誌編輯に關する御寄稿は、今後「東京市日本橋區岩附町一番地小高艶子」方へ御送り下さる様に願ひます。